

**内部監査部門実態調査のご報告**  
**～予算動向/人材育成/業務のオンライン化～**

---

2021年4月吉日  
株式会社アビタス  
法人営業部

# 調査概要

(回答期間)

2021年2月15日～2021年2月26日

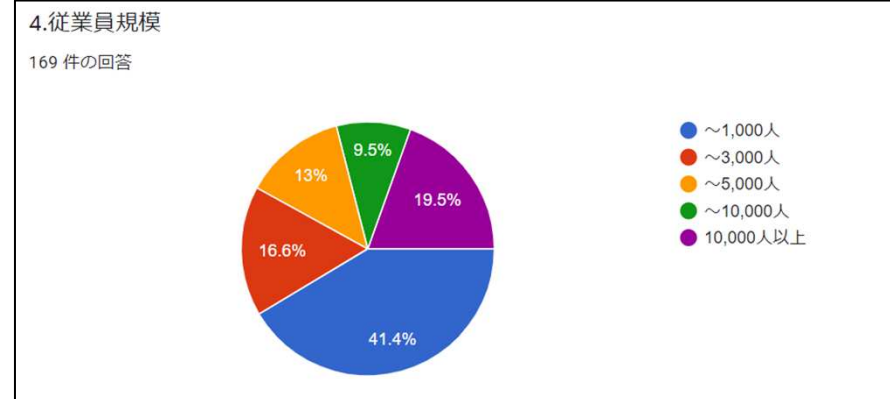
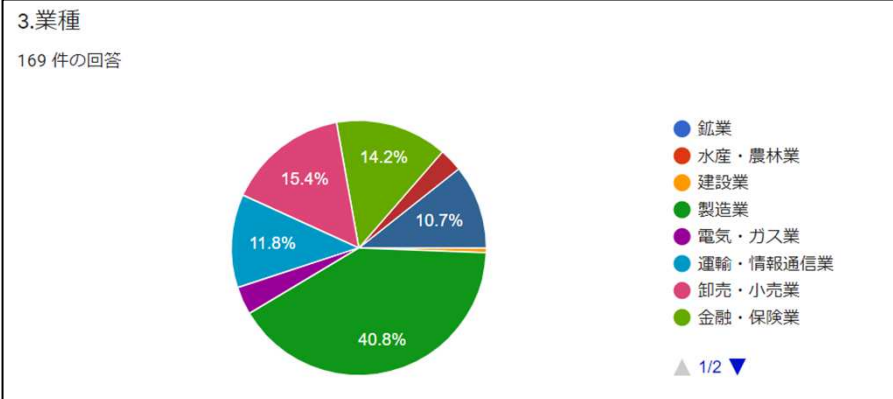
(アンケート手法)

記名調査

(回答企業数)

169社

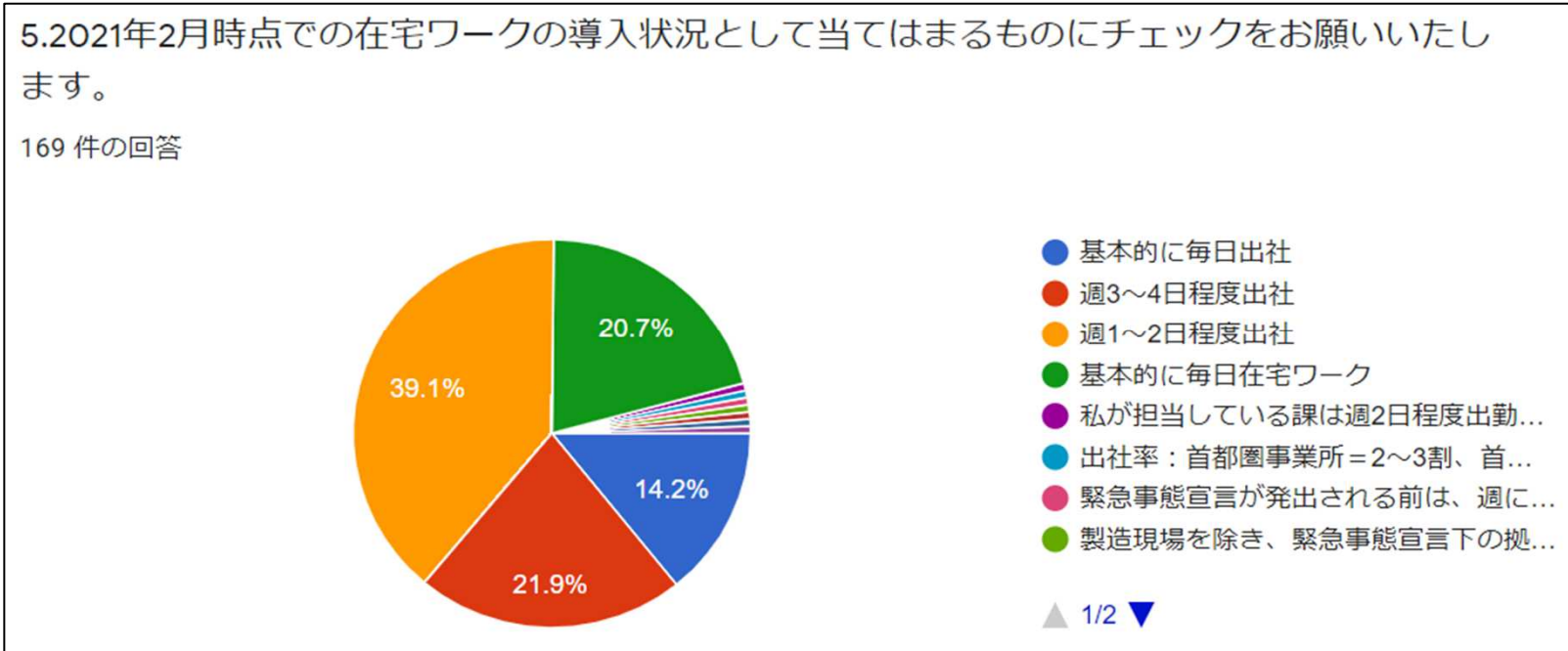
(企業属性)



# 1. 在宅ワークの導入状況

内部監査部門の21.9%が「基本的に毎日在宅ワーク」、39.1%が「週1~2程度出社」  
**61.0%が週3日以上在宅ワーク**をしている。9月の弊社調査時点より6.4ポイント上昇し、9月よりも2月  
 月は、さらにリモートワークが進んだと言える。

➤ **54.6%が週3日以上在宅ワーク**（アビタス調査：「内部監査部門の実態調査」9月）

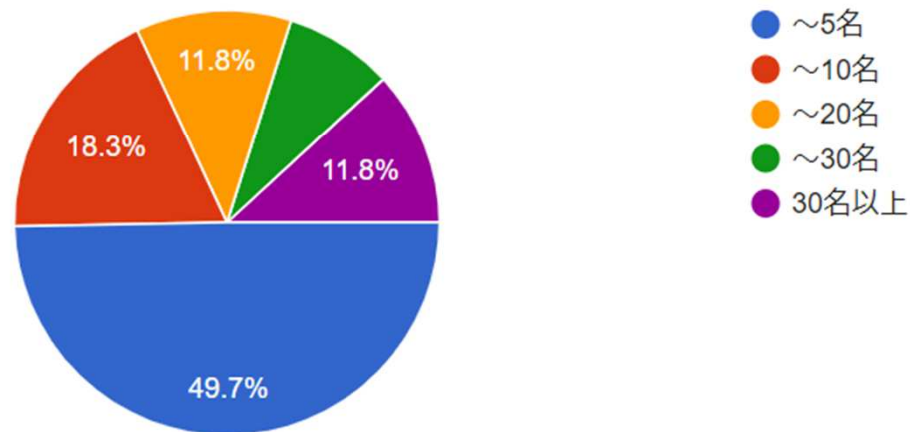


## 2. 内部監査部門の人数

内部監査部門の人数は、「30名以上」が11.8%。「20名～30名」が8.3%。  
「10名～20名」が11.8%。「6名～10名」が18.3%。「5名以下」が49.7%となった。  
➤ 「30名以上」の企業は、金融機関や、グローバル展開している事業会社が多い。

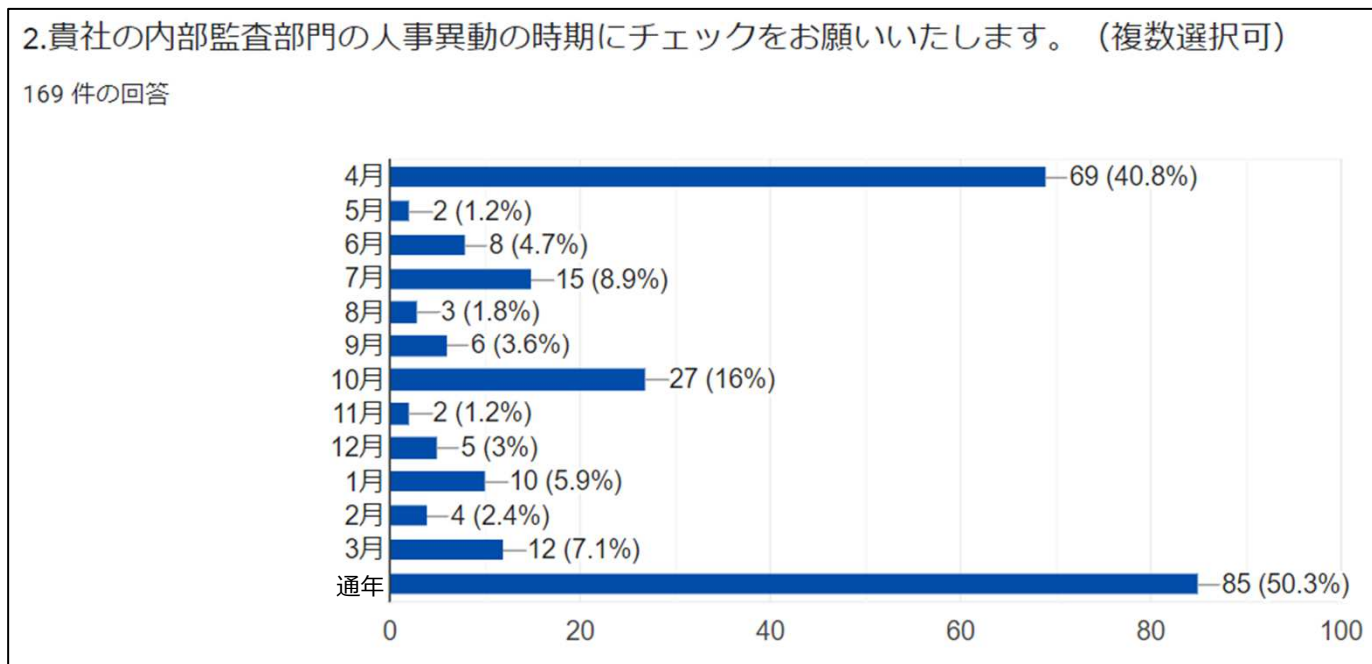
1. 貴社の内部監査部門の人数を教えてください。

169 件の回答



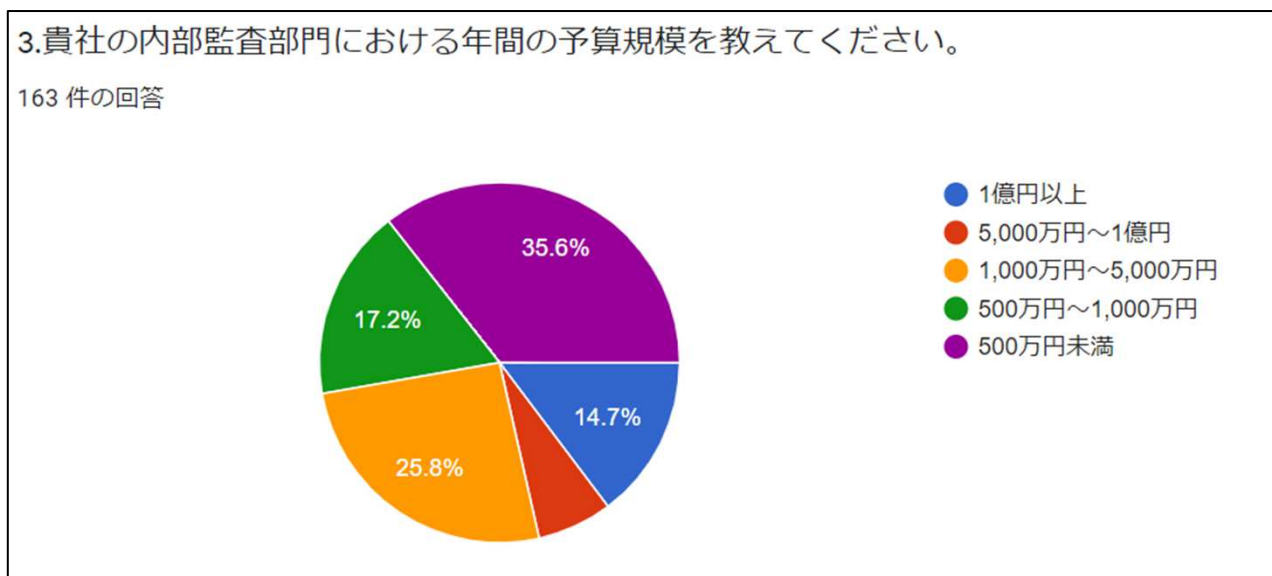
### 3. 人事異動の時期

人事異動の時期は、「通年実施」の50.3%が1位。「4月」の40.8%が2位。「10月」の16%が3位。「7月」の8.9%が4位となった。初任監査人を受け入れる時期として、通年で教育体制を整える必要がある。また「4月」の時期が、最も初任監査人の教育の必要性が高まる時期だと言える。



## 4. 予算規模

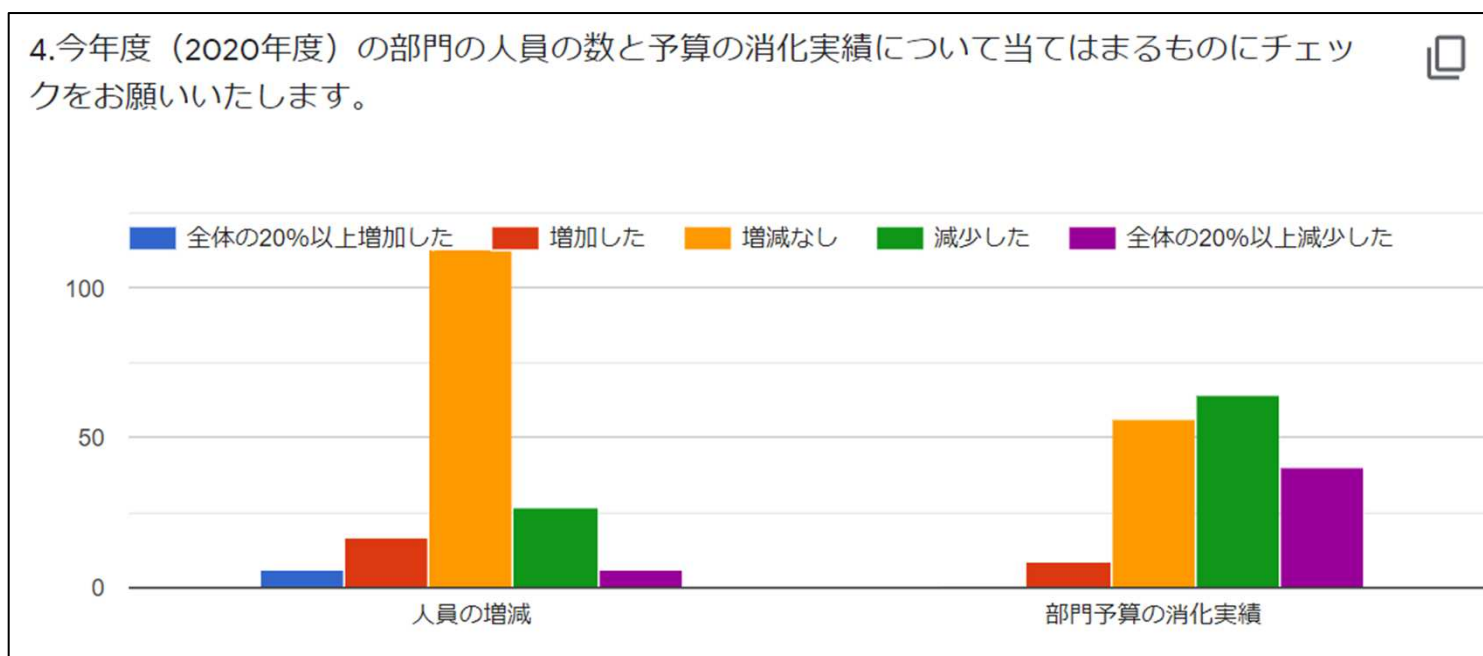
内部監査部門の予算規模は、「1億円以上」が14.7%。「5,000万円以上」が6.7%。「1,000万円以上」が25.8%。「500万円以上」が17.2%。「500万円未満」が35.6%となった。



## 5. 2020年度の人員と部門予算消化の増減

内部監査部門の人員については、概ね変化は少ない。「減少した（緑）」のグラフが若干高く、人員は微減した。

予算消化の実績については、「減少した(緑)」:60社。「全体の20%以上減少した（紫）」:40社、と2020年度は大幅に減少したと言える。



## 6. 2020年度の人員と部門予算消化の増減～自由記述

ガバナンス強化の目的で人員を増やす企業はあるが、予算消化はコロナ理由により大幅に減少した。

### 人員の増

J-SOXの監査をしている人員（4名）を他部門から監査室に異動させたため  
監査機能の強化による人員増  
1名体制だったので、複数体制にするため  
外部採用  
人員増；事業会社からの出向受入。

### 人員の減

退職者・出向解除者の不補充、外部委託経費削減  
ベテラン層定年退職のため  
定年の自然減  
自己都合による退職  
退職による人員減少  
人員減少は会社全体の人員削減策に沿ったもの。  
人員の他部門への異動。  
部員の異動

### 予算消化の増

業務量増加に伴い人員増加

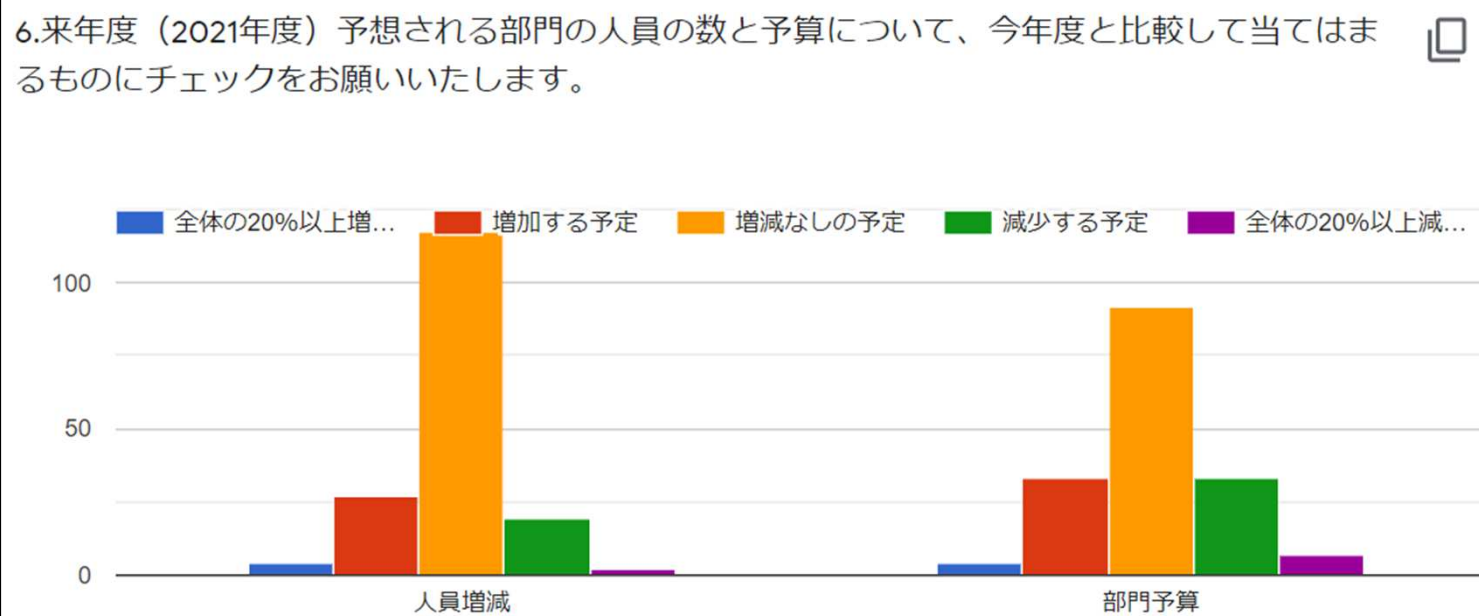
### 予算消化の減

海外出張旅費が発生しなかった。  
海外渡航の意送り（年3回／のべ6人＋監査法人同行）  
交際費、出張費が減少  
地方往査がなくなったため  
海外出張の停止のため  
新型コロナウイルス感染症を考慮し実地監査日数を縮小  
海外・国内共に出張費未使用（リモート監査実施）  
コロナ禍に伴う経費削減のため。社外研修費、備用品費、交際費など  
COVID-19の影響からの業績悪化による予算削減、及び業務合理化によるスリム化  
内部統制監査に重点を入れるため。ただし往査はせず、リモート監査だったため、予算消化は減少。



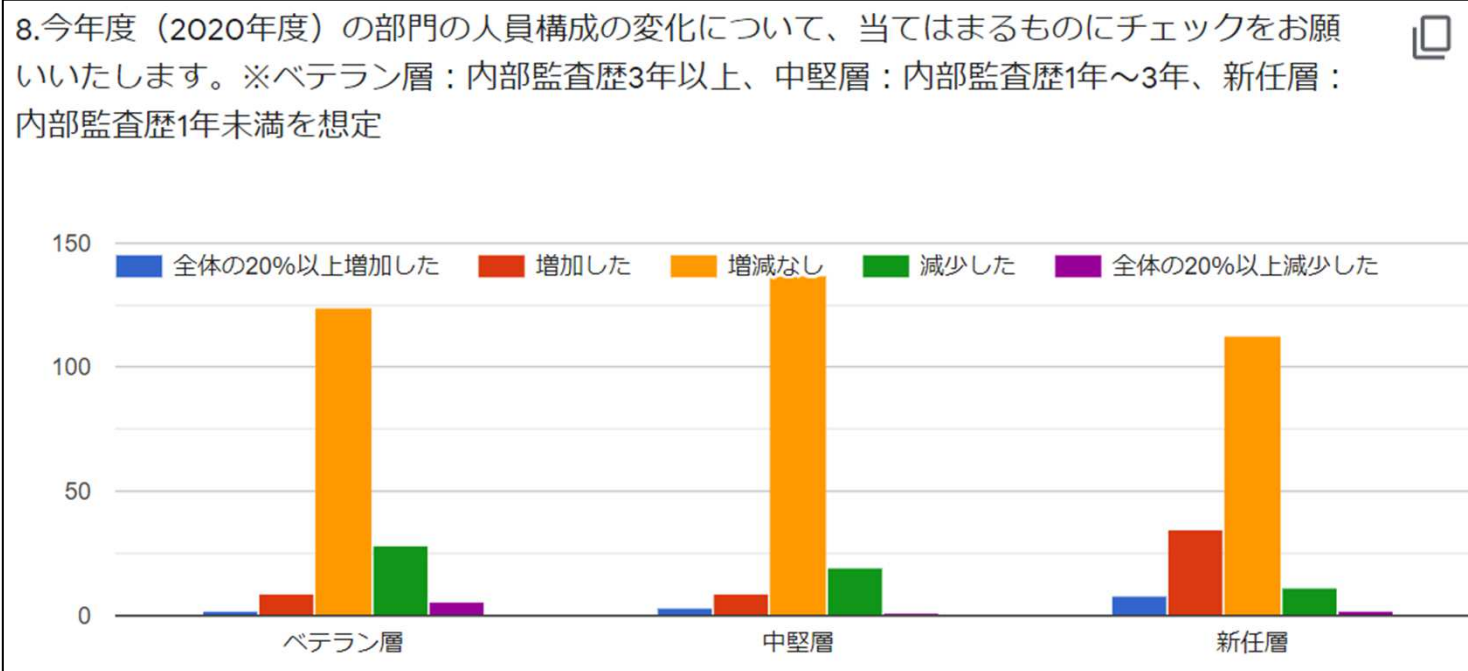
## 7. 2021年度の人員と部門予算の増減

内部監査部門の人員については、2020年度と同じ水準、若干の人員増を見込む企業の方が多い。予算についても、全体としては2020年度と同水準となることが想定される。



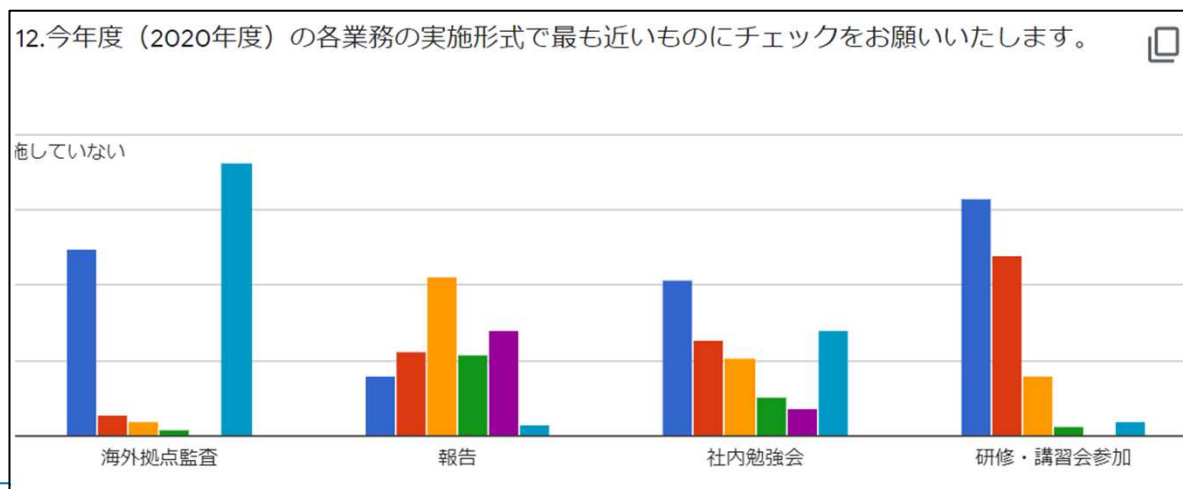
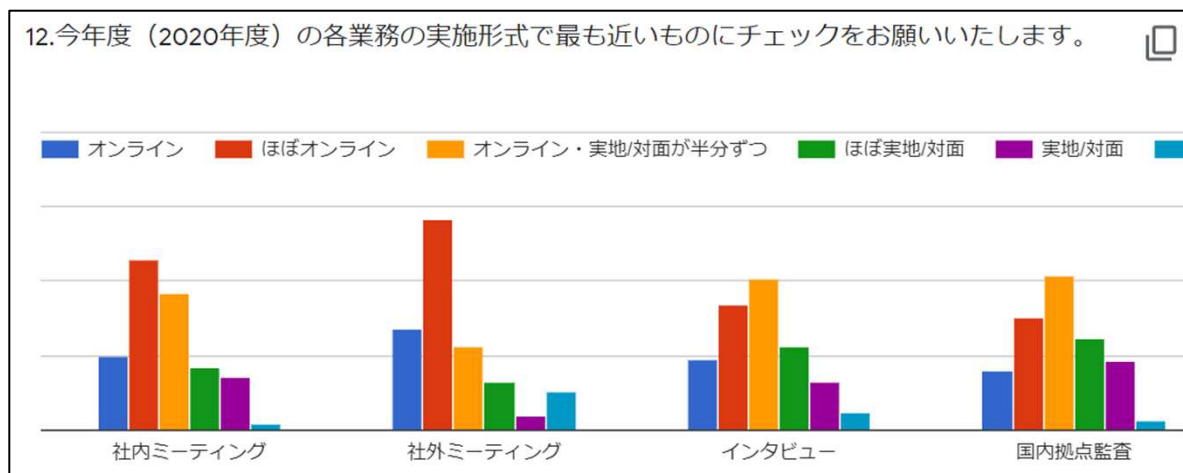
## 8. 2020年度の人員構成の変化

内部監査部門の人員構成は、「ベテラン層」「中堅層」が減少し、「新任層」が増加している。定年退職等の自然減と、中堅層の異動により減少し、新任者が増加している。



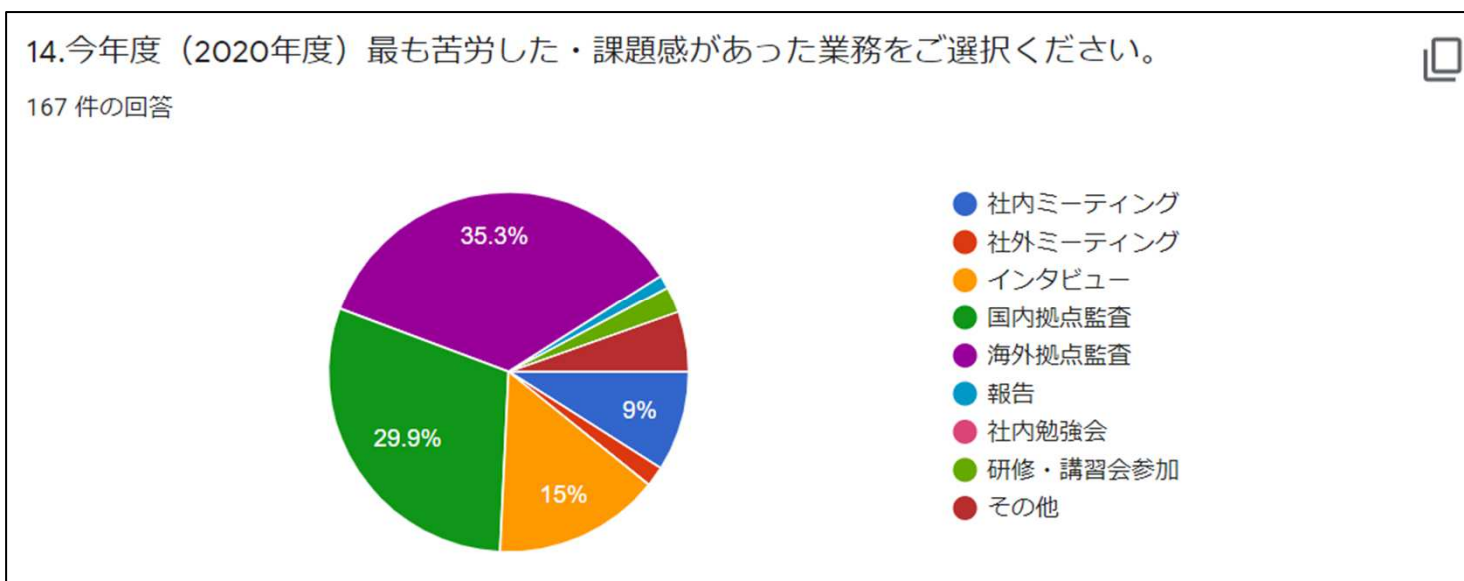
## 9. 2020年度コロナ禍の業務の実施形式

「海外監査」「研修・講習会参加」のオンライン化が、大幅に進んだ。  
 「国内拠点監査」「報告」は対面/実地での実施が比較的多い。



## 10. 2020年度最も苦勞した・課題感のあった業務

2020年度最も苦勞した・課題感のあった業務は「海外拠点監査」が38.3%で1位。「国内拠点監査」29.9%で2位。「インタビュー」15%で3位となった。

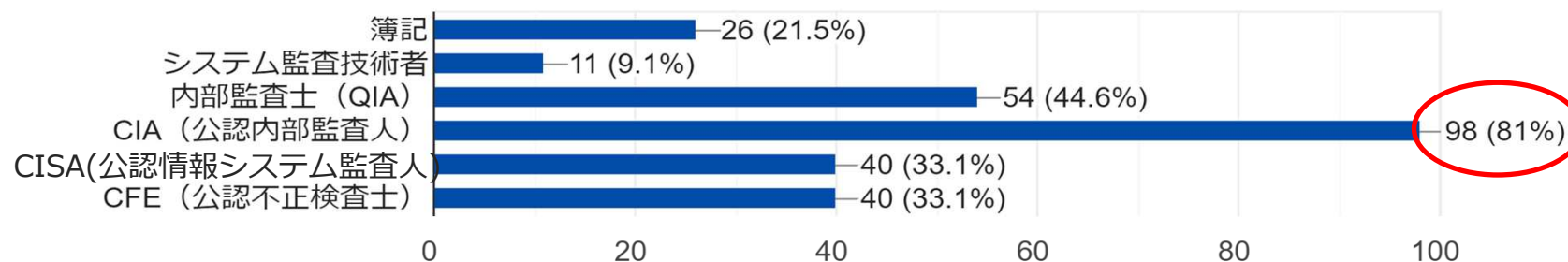


# 11.資格取得の推進状況

推奨されている資格は、CIA(公認内部監査人)が全体の81%。次いで、内部監査士 (QIA) となっている。

貴社内部監査部門の中で推奨している資格があればチェックをお願いいたします。(複数選択可)

121件の回答



出所：アビタス「内部監査業務・人材育成に関する企業実態調査」2021年2月